

## 開会のご挨拶



### 木村 容子 先生

東京女子医科大学 東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省(国家公務員1種)

英国Oxford大学大学院 修士課程修了

2000年 東海大学医学部(学士入学)卒業

2002年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教

2007年 同研究所 講師

2008年 同研究所 副所長

2010年 同研究所 准教授

東洋医学シンポジウムは、従来、日本東洋医学会学術総会開会前のサテライトシンポジウムとして開催されてきましたが、2015年度からは総会の正式プログラム(スポンサーセミナー)として開催することとなりました。

本シンポジウムは、寺澤捷年先生(千葉中央メディカルセンター)、後山尚久先生(大阪医科大学 健康科学クリニック)と歴代のコーディネーターが掲げてこられた『こんな時には漢方を』の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方—困ったときの この一手—」と題し、新たな目線で現代医療に漢方エキス製剤を取り入れる実践的な方法をご紹介します、明日からの実臨床に役立つシンポジウムを目指しております。

今回は2部構成といたしました。第一部では「困ったときの この一手」と題し、各領域の先生方が日常診療でどのようなことにお困りになられ、実際に漢方エキス製剤を治療に取り入れることでより優れた効果が得られた症例を提示していただきます。第二部では、各診療科で幅広く使用されている「抑肝散加陳皮半夏」と「補中益気湯」を取り上げ、有効例をとおして現代の“口訣”を考えたいと思います。